

年度評価シート（令和6年度）

課名 高齢者福祉課

施設の名称 静岡市小鹿老人福祉センター	指定管理者名 公益財団法人静岡市文化振興財団			
1 履行状況				
(1) 目標達成 利用者満足度 目標値88%、実績値97.3%（前年度96.5%）、達成率110.6%（前年度比100.8%）				
(2) 施設利用状況 利用者数				
	令和6年 度	令和5年 度	令和4年 度	令和3年 度
小鹿福祉センター	36,410人	33,189人	30,580人	24,351人
【参考】平成30年度（新型コロナ前）利用者数70,497人 長引くコロナ禍において、高齢者の行動に制限が掛けられたことにより利用者数が激減した。利用者の興味を引くように広報を工夫し、徐々に回復傾向にある。				
(3) 人員配置状況 仕様書に基づき適切な人員配置がなされている。				
(4) 業務実施状況 業務仕様書及び事業計画書に従って実施された。主な事業と参加者数は以下のとおり。				
ア 生活相談・健康相談 駿河区の地域包括支援センターと共催で「健康生活介護相談」を24回開催し、47人が利用した。相談内容は健康面での不安や介護に関することなど多岐に渡り、必要に応じて相談後も地域包括支援センターがフォローを続けている。				
イ 教養講座等 既存団体の活動支援として「水墨画講座－「おめでたい」を描こう」「みんなで歌おう！楽しいコーラス」を実施。講座終了後、受講者のうち複数人が団体へ参加することとなった。 また、年齢とともに心身の活力が低下し、要介護状態となる「フレイル」のリスクを減らすため、「しぞ～かでんでん体操」を実施した。 その他、新規事業として実施した「月末セルフケア～ツボとお灸～」 「気分を上げる！彩りセルフネイル」「しのびよる 詐欺、悪徳商法から身を守ろう！消費者問題講座」なども合わせて37事業246回を開催した。				
ウ 交流事業 パラリンピックの種目であるボッチャを体験する講座では試合に加え、技の習得に向けた練習を重ねた。さらに11月、12月に静岡県立静岡南部特別支援学校を訪れて児童・生徒達とボッチャの試合を通じた交流会を行った。ボッチャを通じて受講者同士の交流を深めることができただけでなく、受講者が障がいを持った子ども				

と触れ合うことにより、地域の支え合いの担い手とその社会的な役割について知るきっかけを提供した。

「出張『来・て・こ』が特支にやってくる」では活動団体2団体を派遣し、静岡県立静岡南部特別支援学校の児童・生徒に対し、講師を務めた。これまでの学びを活かし指導することのやりがいや社会的包摂に対する理解を深め、学び交流する機会となった。

【検証・分析等】

教養講座等の開催数は仕様書を上回っている。また、特別支援学校との交流を通じて地域の支え合いの担い手やその社会的な役割について考える機会を与える事業を取り入れている点が評価できる。

【確認結果】

○：協定書等の内容が適正に履行されている。

2 市民（利用者）からの意見・要望の内容とその対応状況の評価（クレーム対応等）

全ての実施事業で受講者アンケートを実施しており、人気のある講座の実施回数を増やして利用者のニーズに応えている。

【確認結果】

○：適切に対応し、改善すべき事項は対応済み、又は改善に向けて作業中である。

3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価

(1) 利用者満足度調査

年間を通じて来館者を対象にアンケート調査を実施した。

【調査結果】

有効回答数：259件、「満足」「やや満足」の回答数：252件

利用満足度：97.3%（前年度96.5%）

【検証・分析等】

利用満足度は高い水準を維持しており、利用者から好評を受けている。

【確認結果】

○：調査の結果が概ね良好である。

(2) 市民アンケート

年間を通じて、生涯学習センター（同じ建物内の駿河を除く10館）の利用者を対象とした認知度調査を実施した。

有効回答数4,144件、当該施設を知っているという回答数：2,645件（63.8%）

【検証・分析等】

市内全域を対象として、3分の2程度にあたる多くの方に認知されていることが分かるが、まだ改善の余地はあるため、引き続き周知活動を行う必要がある。

【確認結果】

○：調査の結果が概ね良好である。

(3) その他の調査

【確認結果】

－：未実施

4 指定管理者の経理状況の評価

【収支状況】

指定管理業務についての収支状況については、適正に執行されている。

【検証・分析等】

光熱費の高騰は精算により対応し、人件費や物価高についても指定管理者の努力により運営されている。

【確認結果】

○：安定的な施設運営を行っており、また今後も継続できる見込みである。

5 総括的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）

前年度事務事故発生の有無	無
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無

【検証・分析等】

指定管理業務全般について、業務仕様書や事業計画書に従い良好に実施されている。

事業全般については、地域包括支援センターと連携した相談業務、介護予防のための「しぞ〜かでん伝体操」など利用者のニーズを把握しながら進めている。

目標値となる利用者満足度は高水準を維持しており、適切な施設運営が出来ていると評価できる。

【評価結果】

○：良好な管理運営であった。

※事務事故が発生したとき及びモニタリングにおいて改善の指導があったときは、必ず改善状況を記載すること。